

# KUMAMOTO YMCA NEWS

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

**YMCA** September 2014  
vol.508



多くの子どもたちが参加したサマーキャンプ

- C O N T E N T S**
- ① 障がいのある人へのより良い就労支援のために
  - ② サマーキャンプ報告
  - ③ 第41回ボニーキャンプ／第32回日韓視覚障がい青少年交流  
Youth Act Vol.6 ポニーキャンプユースリーダー猪崎由紀子さん  
REPORT 「福島のがた」写真展／国際青少年平和セミナー
  - ④ タラント No.6 「「違い」を受け入れる力」  
Topics 高等学校／YMCA学院／みなみYMCA

## わたしと聖句



ルカによる福音書15章4節

あなたがたの中に、百匹の羊を持って  
いる人がいて、その一匹を見失ったと  
すれば、九十九匹を野原に残して、見  
失った一匹を見つけ出すまで捜し回  
らないだろうか。

あなたも、神さまから捜され  
ています

しばらく前のことですが、猫が一匹  
通り抜けられるかどうかのすきまを

空けたまま、玄関のドアを閉め忘れて  
いたことがありました。あわてて、  
飼っている4匹の猫たちが家の中に  
いるかどうか探しましたが、どうして  
もそのうちの1匹、シオン、の姿が  
見えません。必死で家の中と外を探し  
まわり、結局、段ボール箱の中で寝て  
いるところを発見しました。

このようなとき、一匹が逃げ出し  
ても、まだ他に三匹いるからいいや、  
とは、当たり前のことですが、考えら  
れませんが、冒頭に挙げた聖句のよう  
に、イエスさまは、神さまと人間の関  
係を、羊飼いと羊の関係になぞらえ語  
られました。百匹のうちの一匹を探し

に行くなんて非効率的、残りの九十九  
匹を守った方がいいように思えます。  
しかし神さまは、なりふりかまわず、  
ただ一匹を探すのです。「捜し回らな  
いだろうか、いや捜し回るだろう、そ  
れは神さまにとっては当たり前、こ  
となのだから、とイエスさまは語られ  
ます。

神さまから見ても、失われていい存在  
など、ひとつもない。ヒヤリとさせら  
れたこのできごとを思い出すたび、こ  
の聖書のみことばを、つくづく実感さ  
せられます。

日本福音ルーテル室園教会

西川 晶子

## “お互い様”であることが 当たり前な社会を目指して ～障がいのある人への より良い就労支援のために～

熊本YMCAの目指す「共に支え合う社会づくり」  
に向けた働きとして、「就労継続支援A型事業所ウエ  
ルビー」を運営しています。その中で、改めて就労前  
トレーニングの重要性が見えてきました。そこで9  
月、障がい者の就職活動を支援する「就労移行支援事



写真右から  
原田文子さん くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター  
「縁」(熊本障害者就業・生活支援センター)主任就業支援ワーカー  
西 章男さん 九州ルーテル学院大学 人文学部 心理臨床学  
科(社会福祉学)准教授  
藤川登士郎さん 社会福祉法人熊本YMCA福祉会 熊本YMCA  
就労継続支援A型事業所所長

業所」を開設。今回は、就労を希望する障がい者の自  
立支援について、九州ルーテル学院大学の西章男さ  
ん、くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセン  
ター「縁」の原田文子さん、熊本YMCA福祉会の藤  
川登士郎さんにお話を伺いました。



藤川 2012年より「ウエ  
ルビー」の運営をスタートし  
ました。就労継続支援A型事  
業所とは、障がいのある人と  
雇用契約を結び、賃金を保障  
する事業所を指します。ウエルビーは、中央YMCA  
にある食堂で、障がいのある方の仕事は主に厨房業  
務です。周囲に気配りをし、自ら考え動く機能も必要  
となるため、たびたび困難なケースが出てきます。そ  
こで、A型での就労が少し困難な方などを別の角度  
から支援できればと、作業訓練や、職場実習、就職後  
の職場定着支援などを行う「就労移行支援事業所」を  
立ち上げるようになりました。より多くの就労を希  
望する障がいのある人々の自立支援に貢献したいと  
考えています。

障害者自立支援法(現障害者総合支援法)の施行に  
より、福祉的就労を行う事業所は、どのような働きが  
できるでしょうか？

西 制度として明確になることで、障がい者の可能  
性が広がるのではと考えています。そこで大切にな  
るのが、事業所の理念です。きちんと理念を掲げてい  
る事業所であれば、可能性が広がります。また、地域

の人々が就労した障がい者の姿に様々なところで触  
れられるようになることは大きな働きの一つだと思  
います。



原田 近年、就労支援事業所  
は大変増え、障がいのある人  
が、働く場所や働き方を選択  
できるようになってきまし  
た。また、就労移行支援事業所

の働きにより一般就職の場も年々増加し、今年度は  
過去最多の方が就職されています。同時に、それぞ  
れの事業所の質、スキルが問われ始めたようです。頑  
張っている事業所は、移行支援であれば一般就職に  
結びつけることができ、A型事業所であれば継続し  
て長く勤める方が多くいらついています。一方、適切  
なサポートを得られないため、事業所を点々とする  
方もいらついています。各施設の質を高めていくた  
めには、機関相互の連携も必要だと思います。就労支  
援機関、ハローワークなどの労働機関と就労支援事  
業所等の福祉機関が連携し、それぞれの役割を担い  
ながらスキルを高めていくことも課題となる時期だ  
と思います。

藤川 事業所間、事業所と支援機関、教育関係などの  
連携ほか、地域との連携も大切ですね。福祉に関心が  
高い新町にウエルビーが立地していることは、大変  
幸運だと思っています。

西 私は中央YMCA運営委員としてウエルビーを  
活かした高齢者支援について研究し、可能性を探っ  
ています。その中では高齢者にもウエルビーを支援



ウエルビーでの作業の様子

どちらか一方が支えられるのではなく、互いに支え  
られる時もあれば、支える時もある。“お互い様”であ  
ることが、当たり前な社会ではないでしょうか。

働くことの先には、人との関わりの中で生きがい  
を見つけることがあります。「あなたがいてくれてよ  
かった」と言ってもらえること。単に働き、収入が得  
られれば良いというものではないはずです。

藤川 現在、新町町内会と連携して自立支援協議会  
に参加し、民生委員の方と連携して一人暮らしの高  
齢者にお弁当を届けたりし、少しずつですが地域と  
の連携を深めています。

今後、YMCAで取り組む就労移行支援は、一般企  
業に就労したいという障がい者の希望が多く叶うよ  
うにしなければならぬと考えます。また、社会にも  
支援の輪を拡げていけるような関わりが必要だと思



います。障がい者の夢を実現するためのアドバイスをお願いします。

**原田** まずは、本人に働きたいという気持ちがあることが大切です。望む仕事と、本人の能力との間に差がある場合でも、できる限り本人の希望を重視したいですね。その方の夢や目標をかなえるために一緒に何ができるのかという気持ちを忘れずにいたいと思っています。

私たちのセンターでは、得意なことや企業に配慮していただきたいことなどを記入したマッチングシートを持って企業にアプローチしています。求人をつつただけでなく、企業への働きかけも積極的に行う必要性を感じているからです。私が就労支援に携わる中で実感したことは、できないことをできるようにになるまで背中を押すのではなく、いいところを探し、できることからチャレンジしてもらうということの大切さです。



**西** 障がいのある方は、与えられる「失敗するチャンス」が大変少ないように

す。許される範囲での失敗について、健常者同様の雇用の継続が保証されなければ、利用者を追いつめてしまいます。「共に支え合う社会」を考えると、教育や就労、介護などのカテゴリーにこだわらないことも大事だと思います。就労支援機関や小学校から大学までの教育機関、地域などにつながることで、障がいへの理解を深め、障がいに対する偏見の壁を取り除くことができるのではないのでしょうか。YMCAの持つ資源とウエルビーとがさらにつながりを強めることを期待しています。

**藤川** 隣人として互いに支え合う社会づくりに貢献していきたいと思います。本日はありがとうございました。

## 保護者の声

ウエルビーで就労している障がい者の保護者にお話を伺いました。

**1** 小規模作業所に通った後、食に携わる仕事がしたいという本人の希望もあり、「ウエルビー」の紹介を受けました。YMCAの理念、人権尊重の姿勢のもとで働けるのは安心だと思いました。雇用契約によって給与が保障されるようになり、本人の働く意欲が高まったようです。今後は様々な経験を少しずつ仕事を覚え、YMCAの社会活動に参加することで社会との接点を持ちながら、人間的にも成長してほしいと願っています。

**2** YMCAの発達障がい支援リバティードルフィンスクラスのプログラムに参加していたことがきっかけで、「ウエルビー」開設時に声をかけていただきました。知らない所に出向くのが苦手な本人が「YMCAなら」と希望したのです。働き出して、自分なりに仕事の流れを考えて行動できるようになりました。ゆっくりですが成長を実感しています。また、YMCAのボランティアに参加して自分も人の役に立つことができると感動し、自信も生まれてきたようです。

### 昆虫大作戦キャンプ⑩

期間:3泊4日 7/23(水)~7/26(土)

場所:阿蘇YMCA・いこいの村  
阿蘇の大自然の中での昆虫採集!キャンプを通していのちの大切さを学びました。

「日本宝くじ協会」から助成を受けた宿泊テントに泊まりました。



### 大自然フィールドキャンプ

期間:4泊5日 7/28(月)~8/1(金)

場所:長崎県立世知原少年自然の家  
自然の中でのハイキング、沢登りや川遊びの他、テント泊や火起こしも体験しました。



### あそ・くじゅう探検 ロングキャンプ

期間:5泊6日 8/3(日)~8/8(金)

場所:阿蘇YMCA

仲間と登山・ロングウォーキングを行いました。達成感、満足感が得られ自信がつけました。



### コスモスキャンプ

期間:1泊2日 8/16(土)~8/17(日) 場所:阿蘇YMCA

発達上の苦手さを持つ子どもたちが参加。楽しみにしていたプール遊びは、気持ちよくて最高!新しい遊びにもチャレンジしました。



## 子どもたちが自然の中で大きく成長のサマーキャンプ報告

今年も多くの子どもたちがYMCAサマーキャンプに参加。海水浴、登山、魚釣り、昆虫採集などを体験しました。



### 夏のわくわく探検隊①

期間:日帰り4日間 7/23(水)~7/26(土) 場所:熊本県内各地

川遊びや料理体験に海、そしてバーベキュー!とびっりの笑顔で満喫しました。



### はじめて体験1泊キャンプ①

期間:1泊2日 8/1(金)~8/2(土) 場所:阿蘇YMCA

キャンプファイヤーや野外調理など、お友だちとたくさんの初めての体験ができました。



### はじめての海キャンプ①

期間:2泊3日 7/28(月)~7/30(水) 場所:あしきた青少年の家

天気にも恵まれ、海遊び、カヌー体験、キャンプファイヤーなど、楽しい時間を過ごしました。





## 生きる力と自然の恵み への感謝の心を育む ポニーキャンプ

7月24日(木)～25日(金)、熊本県立盲学校の生徒を対象とするポニーキャンプを国立阿蘇青少年交流の家で行いました。盲学校の協力を得ながら、熊本ワイズメンズクラブとの共催で実施。今年で41回目となりました。

風が吹き抜ける草原では、草スキーやハンモックを楽しみました。ソリで風を切って滑ったり、ユースリーダーと手をつないで斜面を駆けおりるなど、何度も楽しみました。

キャンプファイヤーでは、パーキンス(点字タイプライター)を使って点字で書いた願い事や将来の夢を木の板に貼り、点火前の薪に自分で差し入れ、空高く燃え上がる炎に願いを込めました。

このキャンプでは、一人ひとりの2日間の生活の全てに学生のリーダーが寄り添います。彼らと子どもたちが思い切り遊び、心を開きながら生活する様子には、共に育ち合う姿が見られました。リーダーとして参加した原田純仁さんからは、「担当した子どもの一言や動きに一喜一憂できるのも真剣に援助者として参加していたからだと思う」という感想が寄せられました。2日間を通して、笑顔とにぎやかな歌声が絶えない思い出深いキャンプになりました。

ながみねファミリーYMCA 上村文美



## 音楽やスポーツを通し 日韓の盲学校生徒が交 流

8月4日(月)～7日(木)、第32回日韓視覚障がい青少年交流プログラムが行われました。熊本県立盲学校と韓国・大邱の光明学校の生徒の交流を目的に、1981年から毎年行われており、1年ごとに日本と韓国で交互に開催します。

今年は韓国・光明学校の生徒8名と職員8名が熊本を訪ね、熊本県立盲学校の生徒6名、同校の教諭やワイズメンズクラブ、熊本YMCAの職員など約40名と交流しました。歓迎会では、熊本県立盲学校の生徒が韓国語で自己紹介すると、光明学校の生徒も日本語であいさつ。会場は大きな拍手に包まれました。翌日は熊本県立盲学校で音楽やスポーツを通して交流を深めました。風船バレーボールでは、日韓混成チームで対戦。風船の中の鈴の音と、周囲の声を頼りに皆が夢中でボールを拾いしました。

「光明学校の皆とも一丸となって試合ができました」と県立盲学校の藤岡まいさん。光明学校のイ・ダスルさんは「覚えた日本語で会話ができうれしかった。来年は交流イベントの中で、たくさん会話できる時間をつくらうと思います」と話しました。

光明学校の生徒は阿蘇観光も満喫。来年、韓国での再会を約束していました。



## YOUTH ACT

Vol.06 YMCAで活躍しているユース紹介

### ●ポニーキャンプ ユースリーダー



猪崎由紀子さん  
熊本YMCA学院 児童福祉教育科3年

## 共に成長できたポニーキャンプ

支援が必要な子どもに寄り添える保育士を目指して、熊本YMCA学院の児童福祉教育科に入学しました。学びを続ける中、私を一番成長させてくれたのは、熊本県立盲学校の児童と過ごすポニーキャンプです。1年生の時から3年間、毎年参加して同じ女子児童を担当。お別れの時は毎年泣いてしまったのですが、3回とも涙の意味が違いました。

初参加の時の彼女は小学2年生。手をつなごうとしても、「ママの手じゃない!」と怖がって振り払われ、声をかけても返さず、不安でいっぱいでした。それでも水遊びで弾けるような笑顔を見せてくれ、帰りついたときにはホッとしたのもあり、うれし泣きしてしまいました。その笑顔にもう一度出会いたくて、翌年も参加。彼女は私を覚えていて「今年もよろしくお願いします」とあいさつしてくれました。歩くのも早くなっていて、彼女の成長に感動の涙がこぼれました。3年目になると、彼女から私の手を握ってくれて、歌も会話も弾みました。自分から心を開けば、子どもも必ず心を開いてくれる。そのことを教えてくれた彼女に、「出会ってくれてありがとう」という感謝の涙があふれました。

ポニーキャンプを経験して、私にとって一番の喜びは「子どもの成長」だと実感できました。後輩のみんなも、ぜひ積極的に子どもと関わって、視野を広げてほしいと思っています。

## 福島の現状を伝える写真展

■日程/8月1日(金)～29日(金)

■場所/中央YMCAフリースペース

東日本大震災による福島第1原発事故後の避難区域や避難した人々の現状を伝える「福島のすがた」写真展を開催。福島県三春町生まれ・在住の写真家、飛田晋秀さんが

「事故を風化させない」「事故後の状況をありのままに知ってほしい」「福島県民の思いを知ってほしい」という思いで撮影された原発周辺地域の写真約50点を展示しました。

ICR 神保勝己



## 世界のユースが広島で 平和について学習

■日程/8月4日(月)～6日(水)

■場所/広島

広島YMCAが主催する国際青少年平和セミナーに熊本から7名のユースが参加しました。日本、マレーシア、ドイツ等各国から集った60名のユースが参加。被爆体験者による話や各国の現状報告がなされ、世界が平和であるために自分たちができることについて話し合いました。セミナー中の会話は英語。最初は戸惑っていた熊本のユースたちも次第に慣

れてきました。参加者からは「過去は変えられないが、同じ過ちを犯さないために、平和について考えていかなければならない」との声が聞かれました。

YMCA学院

益田昌弘





タラント No.6

総主事 岡 成也

「違い」を受け入れる力

「A difference is beautiful.」YMCA学院生の海外研修結団式で前総主事の堤弘雄さんが出発を前にした学生へ向けたメッセージです。日本と異なる文化に積極的に触れ、平和を創り出す人になってほしいという願いが込められています。同じ国のもの同士であれば、育ってきた環境の違いはあるにしても、習慣や文化の基本的なことやその背景を理解し合うことは容易です。しかし、国の違いによって、民族や文化、習慣が全く異なるもの同士が和していくことは、容易ではありません。海外体験によって、この「違い」に触れることには大きな意味があります。

先般実施された日韓視覚障がい青少年交流では、韓国大邱と熊本県の盲学校の生徒らが、音楽やスポーツで交流し、友情を育みました。互いの文化や言語に関心を持つことで、もっと話せるようになりたいと意欲的な姿勢を見せた生徒もいました。

ウクライナにおいても、パレスチナのガザ地区においても、紛争地域においても、被爆地広島・長崎の平和宣言の訴えと同じように「平和」を求めています。武力ではなく、対話による和解へ歩んでいくことを求めているのです。

この求めに対して、私たちYMCAは、多様な価値観を受容できる地球市民を育成していくことが重要だと考えます。国境を越えて起こる課題に取り組む人を育てることを目的に日本YMCA同盟が実施する「地球市民育成プロジェクト」へ、今年も熊本から2人の若者を送ることができました。マイノリティを受け入れ、様々な違い、異なる価値を認めることのできる人材となって大きく成長してほしいと願っています。

タイ若竹寮フェスティバル・ユースリーダーの集い

タイの山岳少数民族支援が皆様のお支えにより20周年を迎えました。里親運動、ワークキャンプなど、タイにつながるのある皆様で、思い出を振り返るとともに、これからの活動・支援について語り合う「タイ若竹寮フェスティバル」を開催致します。

また、同日午後からは、この夏、YMCAのサマープログラムやボランティア活動などで様々な経験をしたユースリーダーたちが集い、互いに親しく交わり学びのときを過ごします。

日程：2014年10月5日(日)

会場：中央YMCAジェーンズホール/レクリエーションホール

(熊本市中央区新町1-3-8 TEL 096-353-6397)

<タイ若竹寮フェスティバル>(主管：国際交流委員会)

時間：10:00～13:45

内容：2013年度ワークキャンプ報告・若竹寮の現状報告・グループディスカッション・懇親会など

対象：タイ・ユースワークキャンプ及びスタディツアー参加者、里親、翻訳ボランティア、タイの文化や里親支援に関心がある方

会費：1,500円 ※タイ料理・ドリンク込み

<ユースリーダーの集い>(主管：メンバーシップ委員会)

時間：14:00～17:00

内容：プログラム報告・グループディスカッション・茶話会

お問合せ／熊本YMCA ICR TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877  
E-mail icr@kumamoto-ymca.org

TOPICS

地域YMCAにまつわる人・モノ・場所などを順番にご紹介します。

小論文

高等学校

現在、高等学校では進路対策の一環として「小論文」の授業を週1回行っています。

今年度から熊本日日新聞の新生面を書き写すことを授業で取り入れることになり、そのための教材を熊本日日新聞販売店さんをお願いしたことから、新町販売センターが発行するミニコミ誌「せいざん」に取り上げていただきました。書き写しは、小論文の上達だけでなく面接や願書の志望動機を自分の思ったとおりに書くために役立つ練習方法です。10月から後期がスタートします。

高等学校 福山裕敏



岡崎光洋さん

学院



熊本YMCA専門学校運営委員会では、例年、地域の皆さんを対象としたセミナーを開催しています。

今回は、前回は好評だった岡崎光洋さんをお招きしてのセミナーを企画し準備しています。岡崎さんは、スクールカウンセラーとして、また、臨床心理士としてテレビや新聞でご活躍中です。今、子どもたちの身の周りに様々なことが起こっている中、私たち大人が子どもたちとどう向き合ったらよいかを考えます。12月6日(土)開催予定です。

YMCA学院 中島修

ぶどうの木幼稚園

みなみ



ぶどうの木幼稚園ではYMCAの専門スタッフによる水泳・体操・えいごなどのプログラムを毎週実施しています。

見るもの・聴くもの・触れるものすべてをぐんぐん吸収して感性豊かに育ちゆく子どもたち。この大切な時期に様々な本物の体験をさせてあげませんか。降園後は同じ建物で行われているみなみYMCAのプログラムにそのまま行けることも魅力的です。いよいよ10月1日(水)より2015年度入園受付が始まります。詳しくはお問い合わせください。

みなみYMCA 厚地洋子

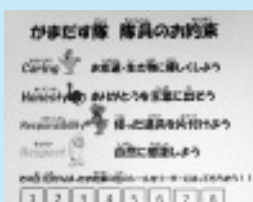
Kumamoto YMCA Network

中央YMCA	☎096-353-6391	水前寺幼稚園	☎096-362-4141
YMCA学院	☎096-353-6393	阿蘇YMCA	☎0967-35-0124
YMCA学院高等学校	☎096-353-6391	尾ヶ石保育園	☎0967-32-0213
本部事務局・ICR	☎096-353-6397	永草保育園	☎0967-32-0810
みなみYMCA	☎096-378-9370	赤水保育園	☎0967-35-0024
上通YMCA	☎096-352-2344	黒川保育園	☎0967-34-0402
東部YMCA	☎096-382-6661	リフレスおおむた	☎0944-58-7777
ながみねファミリーYMCA	☎096-385-0676	就労継続支援	☎096-312-1333
むさしYMCA	☎096-248-6334	A型事業所WELL-B	



思いやり 誠実さ 責任感 尊敬心  
キャラクター・ディベロップメント推進中

リフレスおおむたでは小学校の低学年対象の『がまだす隊』が農業体験を中心としたプログラムを年間を通して行っています。地域の人々から様々なことを学び、たくさんの生き物・自然に触れる中で思いやる心や感謝することを体験・経験しています。解散の前には隊員のお約束をリーダーと振り返り、頑張ってきた目標の色のシールを貼るようにしています。



(リフレス 嵯崎翔士)

【基本聖句】あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい(ペトロの手紙14章10節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会  
ウェルネス活動

地球環境の保全  
ボランティア活動

生涯学習の推進  
平和な世界

■ホームページ  
www.kumamoto-ymca.or.jp

■メールマガジン登録  
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

